第４課　反対に遭う

【暗唱聖句】

「しかし、神の目がユダの長老たちの上に注がれていたので、彼らは建築を妨げることができず、その報告がダレイオスになされ、それに対する王の返書が送られてくるのを待った」エズラ記5章 5節

【日曜日・反対が始まる】

「ユダとベニヤミンの敵は…聖所を建てていることを聞いてゼルバベルと家長たちのもとに来て言った。「建築を手伝わせてください。わたしたちも同じようにあなたがたの神を尋ね求める者です…」しかし、ゼルバベルとイエシュア、他のイスラエルの家長たちは言った。「わたしたちの神のために神殿を建てるのは、あなたたちにではなく、わたしたちに託された仕事です。ペルシアの王キュロスがそう命じたのですから、わたしたちだけでイスラエルの神、主のために神殿を建てます」エズラ1:1～3

神殿の再建が始まった時、その土地にいた者たちが一緒に手伝わせてくださいと申し出ます。少しでも人手が欲しかったでしょうから、一見ありがたい申し出のように見えます。しかし、ゼルバベルたちはその申し出を断ります。それは彼らが「敵」と呼ばれているように、真に神様を礼拝していない周辺諸国から集まってきた異教徒であることがわかっていたからです。イスラエルの歴史は周囲の異教徒たちと絶えず妥協を続けてきた結果、国が滅びていくまで堕落してしまいました。だから、神殿を再建するにあたっては、同じ過ちを繰り返すわけにはいきませんでした。この判断が正しかったことは、その後に続く聖句によって明らかです。

「そこで、その地の住民は、建築に取りかかろうとするユダの民の士気を鈍らせ脅かす一方、ペルシアの王キュロスの存命中からダレイオスの治世まで、参議官を買収して建築計画を挫折させようとした」エズラ1:4，5

【月曜日・預言者が励ます】

「預言者ハガイとイドの子ゼカリヤが、ユダとエルサレムにいるユダの人々に向かって…預言したので、シェアルティエルの子ゼルバベルとヨツァダクの子イエシュアは立ち上がって、エルサレムの神殿建築を再開した。神の預言者たちも彼らと共にいて、助けてくれた」エズラ5：1，2

周囲の反対によって恐れが生じ、神殿再建がストップしてしまったとき、神様は預言者ハガイとゼカリヤがユダに遣わしてユダの人々を励ましました。神様の言葉ほど私たちを励ましてくれるものはありません。「お前たちは自分の歩む道に心を留めよ。山に登り、木を切り出して、神殿を建てよ。わたしはそれを喜び、栄光を受ける」（ハガイ1：7）と神様の言葉を伝え、何のためにエルサレムに戻ってきたのか、初心に返えるように伝えました。多くの困難の不安の中で、聖書の神様の言葉が私たちを励ますということです。またエルサレムに帰還しても苦労の多い日々であることに対して、次のように言いました。

「お前たちは多くの収穫を期待したがそれはわずかであった。しかも、お前たちが家へ持ち帰るときわたしは、それを吹き飛ばした。それはなぜか、と万軍の主は言われる。それは、わたしの神殿が廃虚のままであるのに、お前たちが、それぞれ自分の家のために走り回っているからだ」

神様の働きを第一優先しないで、自分の生活のことに奔走しているから、ますます生活は苦しくなるのだと主は言われました。これは私たちも同じではないでしょうか。

【火曜日・工事の中止】

周辺住民の神殿再建反対運動は、歴代の王たちに執拗に神殿再建を中止するよう直訴することから始まりました。そして、それは功を奏し、アルタクセルクセス王は神殿再建を命じておきながら、その強い声に押されて中止を命じるのです。無用な混乱を避けたかったのでしょう。「王になおいっそうの迷惑が及ばぬようにせよ」（エズラ4：22）との言葉からもわかります。この王の神殿再建中止命令を受けて、周囲の反対者たちは強い助け舟を得たとばかりに、強引に武力で工事を中止させました。このような困難の中で、ユダの人々は神様の導きを疑い、今は神殿再建の時期ではないのではないか、そもそも神殿再建など無理なのではないかとの思いに支配されてしまいます。そのような状況の中で、預言者が遣わされたのです。

【水曜日・ネヘミヤが行動を起こす】

「わたしたちはわたしたちの神に祈り、昼夜彼らに対し、彼らから身を守るために警戒した」ネヘミヤ記4：3

「そこでわたしは城壁外の低い所、むき出しになった所に、各家族の戦闘員を、剣と槍と弓を持たせて配置した」ネヘミヤ記4：7

周囲の人たちの反対に対して、何もしないわけではありませんでした。神様が守ってくださることを信じつつ、力をある限り神殿再建のために敵に対して防御しました。そして、家族の中から戦闘員を出させ、「敵を恐れるな。偉大にして畏るべき主の御名を唱えて、兄弟のため、息子のため、娘のため、妻のため、家のために戦え」（ネヘミヤ4:8）と鼓舞したのでした。神様のための働きには、必ず敵の攻撃があります。その攻撃に対して何もしないのではなく、恐れることなく神様の助けを信じ、戦っていくことが神の民には求められているのです。また、その戦いは、血肉の戦いではなく霊の戦いです。

【木曜日・大きな工事をしている】

「サンバラトとゲシェムはわたしのもとに使者をよこして、「オノの谷にあるケフィリムで会おう」と言った。彼らはわたしに危害を加えようとたくらんだのであった。そこでわたしは使者を送って言わせた。「わたしは大きな工事をしているので、行けません。中断して出かけたのでは、どうして工事が終わるでしょうか」ネヘミヤ6:2，3

敵は指導者であったネヘミヤを自分たちに有利な陣地に誘い込み、そこで危害を加えようと考えました。そうすれば、ペルシャ王の庇護のもとにあっても、工事を中断させることができると考えたのでした。しかし、ネヘミヤはそのような誘いに乗ることはありませんでした。「わたしは大きな工事をしているので、行けません」と言って断ったのでした。神様の働きである神殿再建を単なる工事ではなく、「大きな工事」と呼んだわけですが、わたしたちも神様の働きに対して同じ思いを持って行っていくことが大切です。